

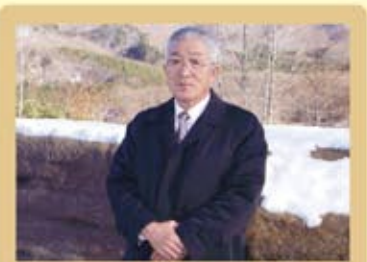
# 地域住民の ”想い“かなう

「胆沢区愛宕地区振興会」  
 会長 阿部 市郎さん



● ダムの湖底から姿を現した「弘法の枕石」

弘法大師（空海）が於呂閉志神社（奥州市胆沢区若柳）を訪れた際、横になり、一夜の休息を取ったとされる「弘法の枕石」が、石淵ダムの湖底から引き揚げられた。地域住民の長年の想いにより、ようやく実現された。阿部さんに引き揚げ実現への想いを聞いた――。



● 「愛宕地区振興会」会長 阿部市郎さん

**阿部 市郎さん** プロフィール  
 長い間、愛宕地区振興会の理事、副会長を務め、平成20年より、愛宕地区振興会会長となる。現在も、会長として地域振興のために精力的に活動している。

## ○「弘法の枕石」の由来

今から1200年程前、当時40歳位だった弘法大師（空海）が、於呂閉志神社の奥宮を参拝した折りに、仙北街道の長い道中で安全祈願をした。その際、ちょうど頭に当たる部分に枕のような、縦15センチ、横38センチ程の隆起のある、大きな平たい石で一夜を臥したと伝えられている。

それ以来、地域の住民達は、この枕石をずっと心の支えとして、良いことがあっても、悪いことがあっても、この石に手を合わせ、代々大切に受け継いできた。ところが、昭和28年に、石淵ダムが完成し、枕石が湖底に沈むこととなった。その当時、地域の住民達は、この枕石を他の場所へと移設したい旨を訴えたが、このように大きな枕石を運ぶ重機がある訳でもなく、止むを得ず移設を断念した。その後、60年余りに渡ってダムの湖底に沈んでいたが、新たに胆沢ダムが建設されることになり、石淵ダムが水没する前に、この絶好の機会を逃してはいけないうと、引き揚げを決意した。

## ○於呂閉志神社とは

古くから、地域住民達から心の支えとされており、胆沢町となる前の若柳村と言われた当時は、村社とされていた。猿の岩の頂上には、弘法大師が道中の安全を

祈願した奥宮があり、「弘法の枕石」はそのすぐ下にある。現在でも、住民にとっては心のよりどころとなっている。

## ○引き揚げから移設への働きかけ

石淵ダムの湖底には、60年余りの間、「弘法の枕石」はもとより、お地藏さんや、山の神等、地域住民の想いが詰まった、歴史ある様々な石が水没してきた。「地権者の会」及び「仙北街道を考える会」も、これまでも、国土交通省や市の方へ枕石の引き上げ及び移設の要請をしてきたがかなわなかった。後に、「胆沢区愛宕地区振興会」も要望書を提出してきたが、枕石の学術的な裏付けがないこと、予算的にも難しいということもあり、行政上認められなかった。そこで、同振興会の働き掛けで地域住民の協力も得て、大々的に、枕石の引き揚げ及び移設運動をする運びとなった。

引き揚げから移設などにかかる費用については、全部で110万円計上。その内訳については、同振興会の24年度のまちづくり交付金から70万円、残り40万円は「仙北街道を考える会」他、沢山の方々にお願いした。

## ○「弘法の枕石」の引き揚げ及び移設作業

石淵ダムは、年に1回、保守点検のためにダムの水を干す。その時に「弘法の枕石」が顔を出すため、地域住民は、遠目に見るか、ダム関係者等から許可を取り付けた上で、近くへ見に行くことができる。その際、枕石の大きさや重量等の調査をすることができた。全体を測量した結果、縦2メートル、横48メートル、深さ1メートルで、枕部分は縦15センチ、横38センチ、重量約15トンであることが分かった。

9月7日、12月から始まる胆沢ダムの試験湛水の前に、地域住民の見守る中、